

有力FX企業17社の月間データランキング-2016年6月-

【調査要綱】

矢野経済研究所では、次の調査要綱にてFX(外国為替証拠金取引)店頭取引市場における有力企業17社^{*1}のアンケート調査を実施した。(有力FX企業月間ランキング-2016年5月より、調査対象企業が1社増加したため2016年1月に遡り、各データを再集計し、更新した)

1. 調査期間:2016年7月
2. 調査対象:FX業界大手、有力企業のうち社名又は数値の公表を前提として、協力を得られた17社を対象とした。
一部の企業で、統計数値や社名について非公開のものもあるため、集計対象が17社にならないものもある。
※社名及び数値を非公開とする企業は、集計の際、「その他」としてランキングから除外した。
3. 調査方法:当社専門研究員によるe-mailによるアンケート調査

【調査結果サマリー】

◆ 英国のEU離脱による急激な円高進行で、預かり残高がマイナス462億円(集計対象企業16社の合計)

6月月初、米国雇用統計の結果を受けて米ドル安円高が進んだ。更に下旬には、英国のEU離脱によって、リスク回避の円買いから一時99円台前半までの円高となった。また、英ポンド/円も2008年秋のいわゆる“リーマン・ショック”以来の高い変動率を記録したとされる。各FX企業では、大きな変動が予測されることから投資家に対して事前に注意喚起を促していたものの、結果として、急激な円高の影響によって、ロスカットが発生した投資家もあり、取引高が大きく増加した。反対に外貨買いポジションが目減りし、預かり残高は減少した。

◆ 企業単体集計の2016年6月の預かり残高第1位はGMOクリック証券、第2位は外為どっとコム

◆ 企業グループを加味した集計では、第1位はSBIグループ^{*2}、第2位はGMOグループ^{*2}

2016年6月末の有力FX企業16社^{*1}の預かり残高の合計は、8,162億円であった。6月は前月比462億円減(5.36%減)となった。しかしながら、本調査対象企業16社中3社(その他企業2社含む)では、預かり残高が増加した。

◆ 企業単体集計の2016年6月の口座数の第1位はDMM.com証券、第2位はGMOクリック証券

◆ 企業グループを加味した集計では、第1位はSBIグループ^{*2}、第2位はGMOグループ^{*2}

2016年6月末の有力FX企業17社^{*1}の口座数の合計は、407万口座であった。6月は前月比3.7万口座増(0.93%増)となった。本調査対象企業17社すべてで口座数が増加した。

◆ 2016年6月の取引高の第1位はGMOクリック証券、第2位はDMM.com証券

2016年6月の月間取引高は、有力FX企業13社^{*1}の合計で312兆円(百万通貨は1億円として換算)であった。6月は前月比61.0兆円増(24.33%増)であった。本調査対象企業13社すべてで取引高が増加した。

(*1. 集計対象は、預かり残高16社、口座数17社、取引高13社、いずれも無回答を除く。)

(*2. SBIグループはSBI証券、住信SBIネット銀行、SBI FXトレード3社の店頭取引の合算値。GMOグループはGMOクリック証券、FXプライム by GMOの店頭取引の合算値。)

★ご注意:本ランキングは、情報提供を目的としており、投資その他の行動を勧誘し、特定企業を推奨するものではありません。

◆ 株式会社 矢野経済研究所

所在地:東京都中野区本町2-46-2 代表取締役社長:水越 孝

設立:1958年3月 年間レポート発行:約250タイトル URL: <http://www.yano.co.jp/>

本件に関するお問合せ先(当社HPからも承っております <http://www.yano.co.jp/>)

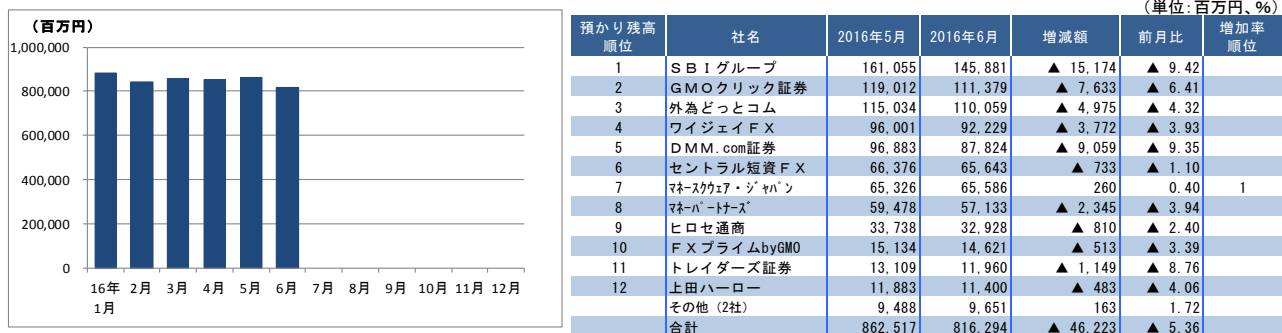
(株)矢野経済研究所 マーケティング本部 広報チーム TEL:03-5371-6912 E-mail:press@yano.co.jp

本資料における著作権やその他本資料にかかる一切の権利は、株式会社矢野経済研究所に帰属します。
本資料内容を転載引用等されるにあたっては、上記広報チーム迄お問合せ下さい。

【 預かり残高 】

●企業単体における預かり残高ランキングの第1位はGMOクリック証券で1,113億円、第2位の外為どっとコムは1,100億円。企業グループを加味した集計では、第1位がSBIグループ(SBI証券、住信SBIネット銀行、SBI FXトレードの合算値)(1,458億円)、第2位はGMOグループ(GMOクリック証券、FXプライム by GMOの合算値)(1,260億円)であった。預かり残高において、前月比で最も高い増加率はマネースクウェア・ジャパン(0.40%増)であった。

図表 1. 預かり残高推移と6月月間ランキング

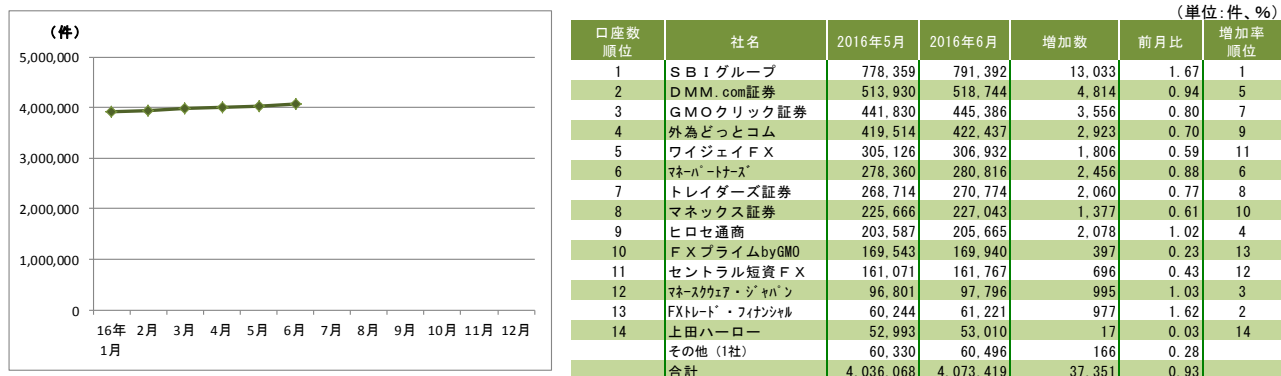


注1. 集計対象は無回答1社を除く16社の合計値。その他には2社含まれる。 矢野経済研究所調べ

【 口座数 】

●企業単体における口座数ランキングの第1位はDMM.com証券で51.8万口座、第2位のGMOクリック証券は44.5万口座。企業グループを加味した集計では、第1位がSBIグループ(SBI証券、住信SBIネット銀行、SBI FXトレードの合算値)(79.1万口座)で、第2位はGMOグループ(GMOクリック証券、FXプライム by GMOの合算値)(61.5万口座)であった。企業グループを加味した場合、前月比で最も高い増加率はSBIグループ(1.67%増)。次いでFXトレード・フィナンシャル(1.62%増)であった。

図表 2. 口座数推移と6月月間ランキング

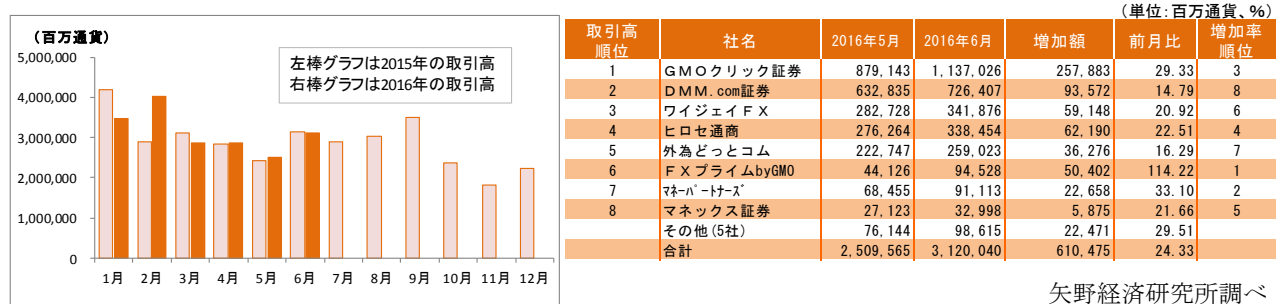


注2. 集計対象は17社の合計値。その他には1社含まれる。 矢野経済研究所調べ
注3. ヒロセ通商の口座数には、バイナリーオプションの口座数が含まれる。

【 取引高 】

●月間取引高ランキングの第1位はGMOクリック証券で113.7兆円(百万通貨を1億円として換算)、第2位はDMM.com証券で72.6兆円(同)であった。

図表 3. 月間取引高推移と6月月間ランキング



注4. 集計対象は無回答4社を除く13社の合計値。その他には5社含まれる。
注5. GMOクリック証券、FXプライム by GMOはカバーをしている同業他社等、マネーパートナーズはCFD(差金決済取引)、ヒロセ通商はホリトラベルを含む。
注6. マネックス証券は、証券単体の店頭取引の公表数値に営業日数を乗じて弊社で算出し、単位を億円で表記。
注7. 百万通貨は1億円として換算。 矢野経済研究所調べ